米松 150*105 の梁材の円弧柄ナグリ加工について

今回の依頼は米松 150*105*4000*4本に円弧柄のナグリ加工を施工するものです。

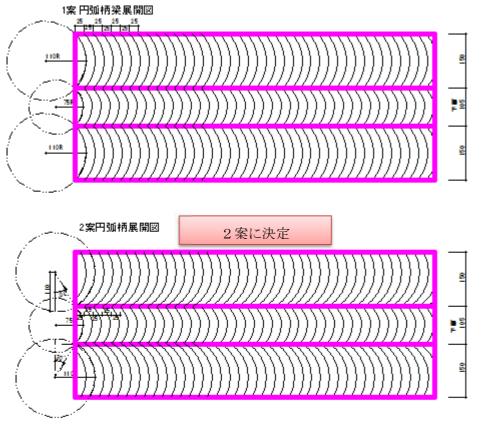
そこで、円弧柄を梁の形状を考慮してナグリ柄の案を原寸形状の展開図にて判断してもらい,ナグリ形状を確定して加工に入ることになりました。

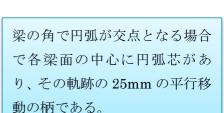
1. ナグリ箇所の確認。

梁断面 150*105 で梁下面の 105 とその両サイド 150 の三面にナグリ加工し、長さ 4000 の内 1000 は 加工無しとなります。また、加工する梁下面は木表とすること。

2. 円弧柄の確定。

円弧形状はこちらより3案提示させてもらいました。 そして、2案の円弧柄に決定しました。

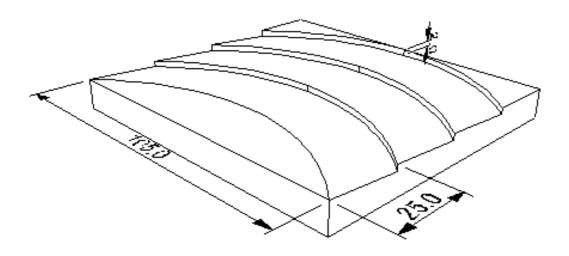




梁の角で円弧が交点となる場合で梁 H150 の面円弧芯を少しずらして梁下面に向かって円弧が絞られていく柄である。

2案の柄で梁角での円弧は交わらず、12.5mm ずれた柄である。

この円弧ナグリは三次元加工です。(梁下面)



3. ナグリ加工前状況。



梁下面は木表としてナグリ加 工致します。(梁上面はナグリ 無し。)

4. ナグリ加工状況。

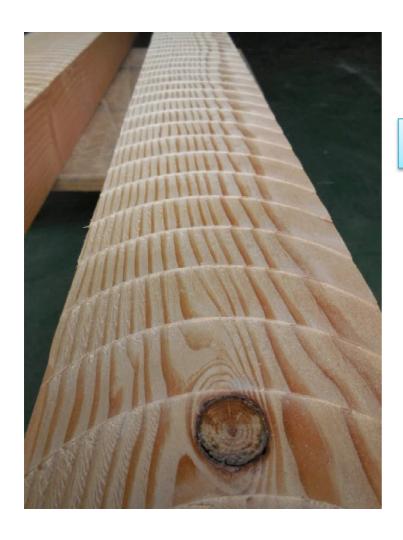


梁下面ナグリ加工中





梁側面ナグリ加工中。



梁下面のナグリ状況。

梁側面 150

梁下面 105

ナグリ柄円弧接合部状況。 梁に反り、ねじれがあれば、円 弧接合点はずれてしまいます。





梁ナグリ仕上がり状況。



単純そうに見える円弧柄のナグリですが、三次元加工であり、手間が多少掛かります。時間があれば、この梁材が収まった仕上がり現場を伺ってみたいと思います。

㈱SNC 住設事業部 Da・Monde 鈴木平成 28 年 2 月 26 日